

市庁舎及び市民会館の整備について（案）

1 整備の必要性

現在の庁舎及び市民会館は、築 40 年を超え、耐震性能が危ぶまれ、著しい老朽化やバリアフリー化への対応など様々な課題を抱えています。

市庁舎においては、予想される災害に備え早急に整備する必要性があり、また、市民会館は、市の都市像「緑豊かなふるさと 文化が 香る元気なまち」実現のためにも、文化のまちづくりにふさわしい拠点となる施設を整備する必要があります。

2 立地及び整備手法

市庁舎・市民会館の立地及び整備手法については、これまでの中野市公共拠点施設立地に係る検討会において委員の皆さまからいただいた貴重な意見を真摯に受け止め、利便性、長期財政状況、将来展望等を総合的に判断した結果、次のとおり選定いたしました。

拠点施設名	立地	整備手法
市庁舎	現庁舎敷地	建て替え
市民会館	旧中野高校敷地	建て替え

（1）立地の選定理由

立地適地選定のコンセプトを基本に、市民の利便性、中心市街地の活性化、市有地の有効活用などを考慮して選定しました。

「現庁舎敷地」に行政機能を集約した市庁舎を整備することで、市民の利便性の向上を図ることができる。また、これまでと同様に市街地の核となり活性化を図ることができる。

「旧中野高校敷地」に文化振興の拠点となる市民会館を整備することで、歴史、文化、交流ゾーンとして地域の活性化を図ることができる。

(2) 整備手法の選定理由

次の項目を考慮して選定しました。

① 安心・安全

「建て替え」により、十分な防災性能を備え、より安全・安心を確保することができる。

② 利便性・機能性

「建て替え」により、ワンストップサービス、バリアフリー化などが可能となり、機能性の充実により、市民の利便性の向上を図ることができる。

③ 経済性

有利な財源（旧合併特例事業債、社会資本整備総合交付金）を活用した「建て替え」により、財政の負担軽減を図ることができる。

3 今後の進め方

市庁舎は、防災重要拠点施設として、早急に整備する必要があるため、優先して整備します。

市民会館は、都市像にふさわしい施設とするため、施設内容、運営内容について、十分に検討し、整備することとします。

よって、以下のスケジュールでの整備を目標とします。

【市庁舎】

平成 26 年度中に着手し、平成 29 年度中の供用開始を目指します。

【市民会館】

基本計画等を十分に検討した後、平成 29 年度中に着手し、平成 32 年度中の供用開始を目指します。